

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
64	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
<p>Risk factors for advanced colonic neoplasia and hyperplastic polyps in asymptomatic individuals.          無症候者における進展した大腸癌と過形成ポリープの危険因子</p>	
執筆者	
Leaberman DA, Prindiville S, Weiss DG, Willett W; VA Cooperative Study Group 380.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
JAMA 2003;290:2959-67.	
キーワード	
大腸ポリープ、大腸がん、危険因子、追跡調査、	
要 旨	
<p>症候のない人での大腸がんの進展の要因を明らかにする疫学調査は少ない。米国の退役軍人病院を訪れた 50-75 歳の 3,121 人の患者を対象として、断面調査による検討を行ったものである。研究は 1994-1997 年の間に実施された。全ての研究対象者は大腸ファイバースコープの検査を受けた。その中で、無症候性の大腸がん、大腸過形成新生物、大腸ポリープのある人 329 例を症例とし、これらを有しない人 1,441 例を対照群として多変量ロジスティック解析を行った。</p> <p>その結果、リスクであったのは第一親等に大腸がんの既往のある人、喫煙者、中等度ないし多量飲酒者 (週 7 杯以上飲む人) であった。繊維を多く取る人、非ステロイド系消炎薬服用者、ビタミンD服用者は負の要因であった。運動は負であったが有意とはならなかった。肥満度および血清総コレステロール値は関連がなかった。</p> <p>今後、これらの危険因子を改善すれば発症危険度が低下するかを検討する必要がある。</p>	